

令和4年8月5日

松阪市議会議長
堀端 脩 様

海住恒幸

研修参加(web)報告書

研修会 議員力研究会
期日 令和4年7月23日(土) 13時～17時
会場 zoom 会議
参加者 愛知、岐阜、三重、奈良の各県の市議会議員10人

研究会は、岐阜県多治見市の幹部職員として、市長マニフェスト・サイクルの総合計画の策定にかかわるなどユニークな市政を実務者サイドから支えた青山崇氏(自治体学会会員、東海自治体学会役員)を常任の講師に迎え、年度に4～5回、名古屋駅から徒歩で歩いて行ける会場で開催しているが、今回は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、zoom 会議となった。会議は、毎回当番制で3人程度の事例報告に基づいた質疑応答と、テーマを決めた意見交換から成る。

1、事例報告

事例報告(1) 随意契約について

(報告者 塩見牧子・奈良県生駒市議会)

障害者団体へのアドバンテージを隠れ蓑に、障害者団体とはいうものの実態はそうではない実業家集団に随意契約されていく実態に疑問を投げかけた一般質問の事例。

【所感】

生駒市では、市事業へのビジネスの参入を積極的に行なっているようで、市長の「おともだち」への配慮ではと疑われる事例が塩見議員の指摘で度々浮かび上がっている。しかも、疑わしさに一定のパターンがあるようなので、契約議案があるごと、予算の支出を含めてチェックしていくことが欠かせない状態となっている。

事例報告(2) 補正予算質疑について

(報告者 海住恒幸・松阪市議会)

内容は別紙(テーマ整理表)を添付することで代える。

【所感】

一つひとつの議案への質疑と答弁によって議案の賛否の判断につながるような質疑としたいと念願している。今回は、直近の補正予算への質疑の失敗事例を紹介することで、会員の意見を踏まえ今後への参考にしたいと考えた。

事例報告(3) 専決処分について

（報告者 辻文男・岐阜県美濃市議会）

議会を招集する時間的余裕がないとはどんな場合があるかを市長に問うている。

【所感】

市長答弁は地方自治法に則した範疇としているものだが、市長に問うことよりも、議会としてどう対処していくかを協議検討して、一定の方向性を示すと良いと思う。

2. 意見交換

テーマ「議案の修正案提出について」

予算(当初・補正)案及び条例案に対する修正案の提案について経験交流。わたしの経験では、これまで予算に関しては行政職員の協力を100%委ねるところがあつて後ろめたかつたが、財源の内訳について正確に把握しておけば自力で可能との意見があつた。賛成か反対かではない選択肢として今一度、積極的に取り組んでみたい。

振り返って

前回4月は名古屋市内の集会所施設を使って開催し、わたしのみ zoom による参加だったが、今回は事前に全員 zoom となった。10人程度のグループ研修なので zoom で十分効果的であると思つた。

以上